



地域研究集会

第5回 海と漁業と生態系に関する研究集会
海洋生態系のなかで漁業を科学する

- 日時： 2022年11月26日(土) 9:15~17:00
- 開催方法： Web (Microsoft-Teams) 方式. 事前予約制による参加方式とします. 参加希望者は11月7日(月)までに予約 ML (JSFO_EcoFish_Entry@ml.affrc.go.jp) へ①氏名, ②所属, ③返信用メールアドレスをお知らせ下さい. 参加者には招待メールをお送りします.
- コンビナー： 山本敏博・竹茂愛吾・川内陽平・米崎史郎 (水産機構資源研)・伊藤幸彦 (東大大気海洋研)
- 共催： (国研) 水産研究・教育機構 水産資源研究所

1. 挨拶： 木村伸吾 (水産海洋学会 会長)
9:15~9:20
2. 趣旨説明： 山本敏博 (水産機構資源研)
9:20~9:50
3. (1) 海洋生態系のとらえ方-海洋における水産資源・海洋環境のモニタリング
- ① 東京湾における環境 DNA による魚種組成・分布の把握 本郷悠貴 (水産機構資源研)
9:50~10:15
- ② 太平洋北部海域における魚種組成の変動特性の類型化 富樫博幸 (水産機構資源研)
10:15~10:45
- ③ 中部ベーリング海における漁獲圧減少に対する浮魚群集の反応 福若雅章 (水産機構資源研)
10:45~11:15
- ④ 水産資源研究におけるキーププロセスの抽出とモデリングの活用 伊藤幸彦 (東大大気海洋研)
11:15~11:45
- 昼休み -
11:45~12:45
- (2) 海洋生態系のなかで漁業を科学するために
- ⑤ 漁業資源における機能群の決定方法と考え方 川内陽平 (水産機構資源研)
12:45~13:15
- ⑥ 海洋生態系の構造や構成種の役割を定量化する 竹茂愛吾 (水産機構資源研)
13:15~13:45
- ⑦ 水産資源のレジームシフトとレジームシフトを予測・管理するための群集アプローチ 西嶋翔太 (水産機構資源研)
13:45~14:15
- ⑧ 水産資源データから種の絶滅リスクを推定する 岡村 寛 (水産機構資源研)
14:15~14:45
- 休憩 -
14:45~15:00
- ⑨ 理論生態学とゲノム科学の融合は水産資源管理に何をもたらすか? 東樹宏和 (京大生態研)
15:00~15:30

4. 全体質疑

15:30～15:40

5. パネルディスカッション

進行：山本敏博（水産機構資源研）

パネリスト：伊藤幸彦（東大大気海洋研）・東樹宏和（京大生態研）・岡田知也（国総研）
・米崎史郎・亘 真吾（水産機構資源研）

15:40～17:00

開催趣旨：漁業は、海洋生態系に生息する生物資源（資源）を系外に移出・収獲する生業である。自給のための小規模漁業から現代の漁業まで続く歴史のなかで、資源の収獲に対する考え方はその社会的要因も含めて変遷してきた。加えて現代の漁業は、近代以降では観察し得なかった環境変化や系外への過度の資源移出（乱獲）により、生態系の劇的な変化（ジャンプ）や履歴効果（ヒステリシス）による回復力の劣化に直面している。本研究集会では、これまでの漁業活動や持続的資源利用の考え方のなかで資源や海洋生態系がどのように調べられ、評価・管理されて来たのか、それが現在の資源や海洋生態系の状態にどのように関係しているか、各分野からの観察結果を概観する。また、現在の海洋生態系にみられる課題について考え、現在またはこれから起こり得る環境のなかでどのような視点で海洋生態系を捉え、漁業を科学的に理解して資源を管理・利用していくのかについて新たな取り組みや成果の発表を通して考える機会としたい。パネルディスカッションでは現在の資源の評価上の課題を整理し、海洋生態系のなかで漁業を科学的に評価するために必要な視点や科学的評価を社会実装していくための課題等について議論する。本研究集会を通じて漁業を海洋生態系の一部の活動として捉えて科学する取り組みの活性化を期待したい。